
第 2 章

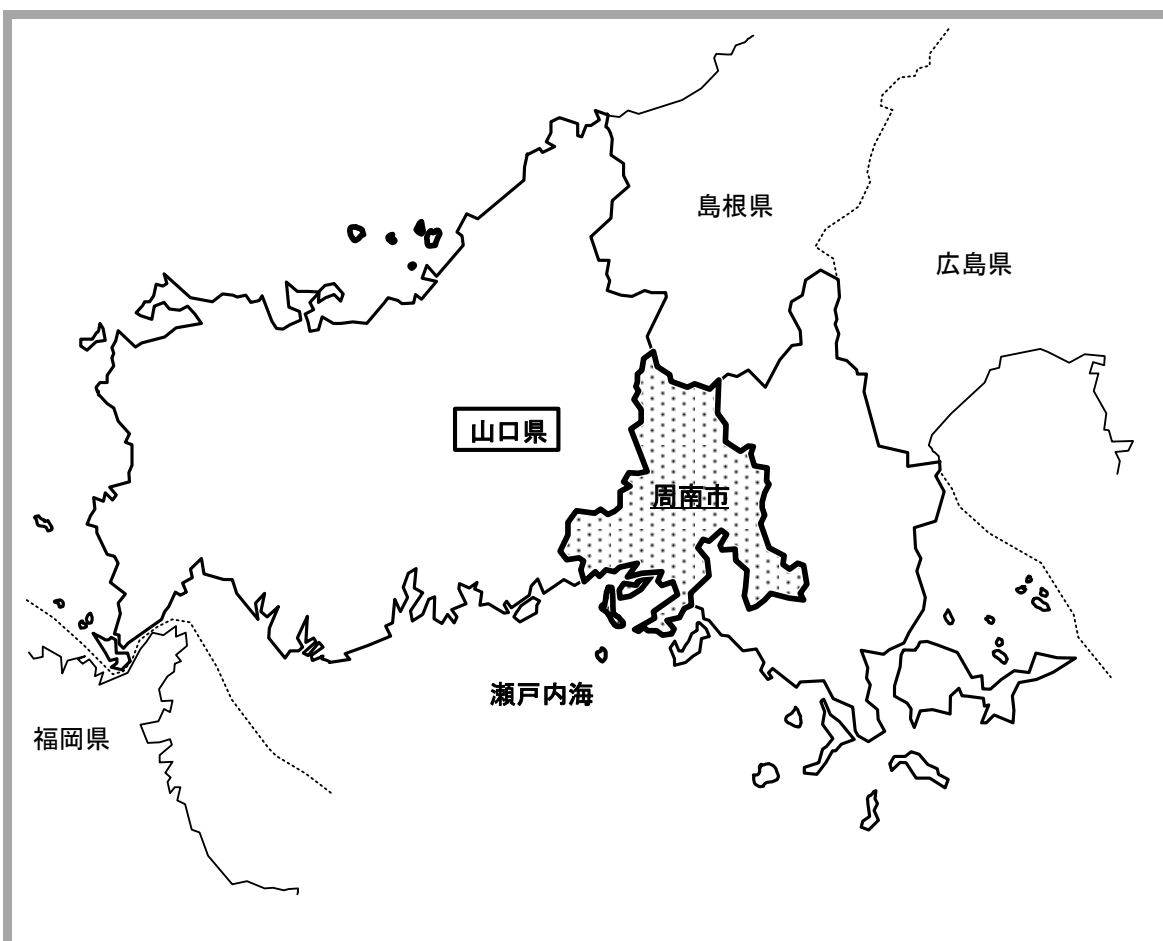
地 域 概 況

1. 自然環境

(1) 位置と面積

本市は、平成 15 年4月 21 日、旧徳山市、旧新南陽市、旧熊毛町、旧鹿野町の 2 市 2 町が合併して誕生し、山口県の東南部に位置しており、北は島根県と接し、南は瀬戸内海に面しています。総面積は、東西約 37km、南北約 43km の 656.29km²（平成29年 10月 1日国土地理院調べ）で、山口県全体の約 1 割を占めています。

◆図4 位置図

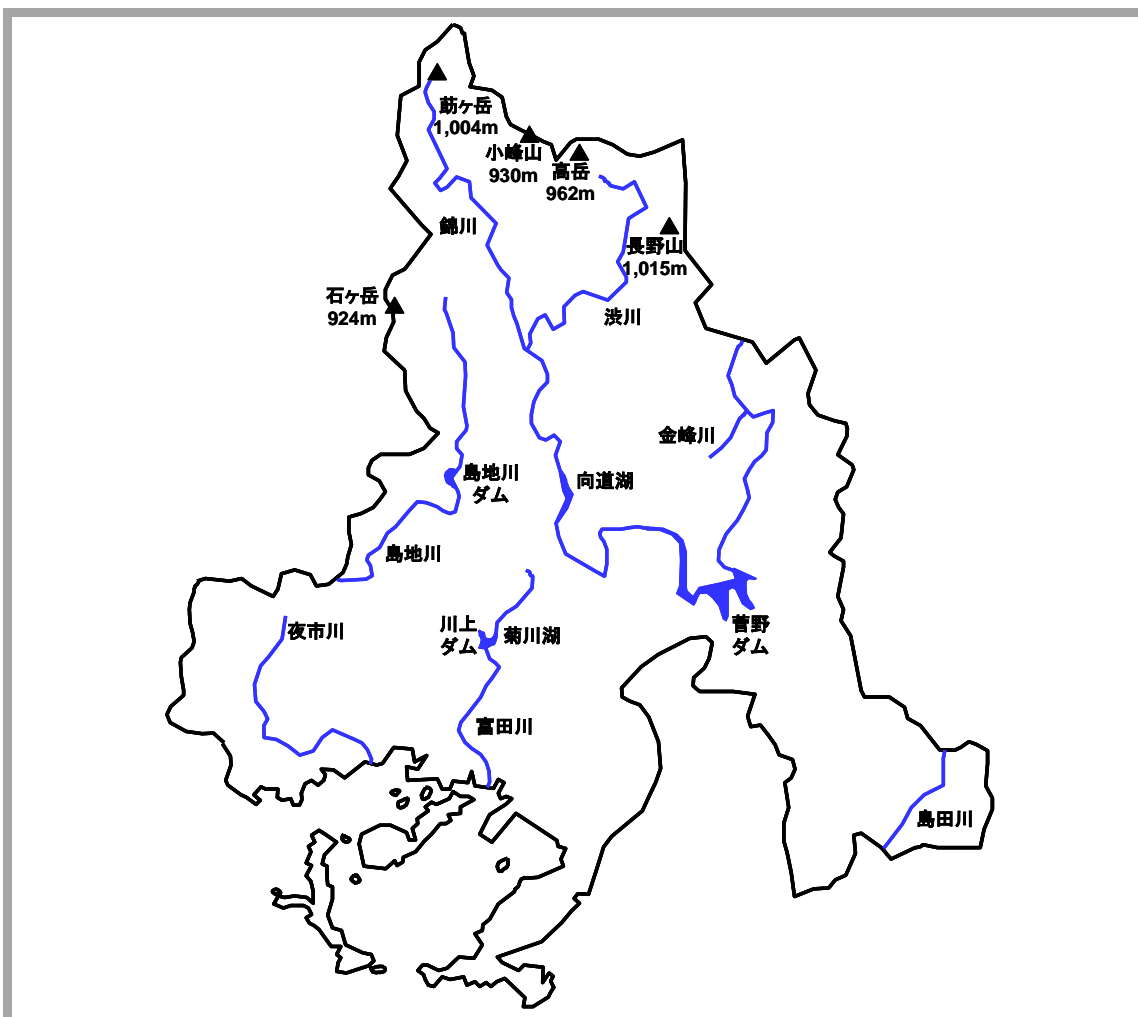


(2) 地勢

本市の地勢は、北側の広大な山稜からなだらかな丘陵地が広がり、海岸に幅の狭い平地が位置しています。この山稜と丘陵地に農山村地帯が広がり、海岸部の平地に市街地が形成され、さらに、海岸部に大規模工場が立地しています。

代表的な山岳は、長野山（1,015m）、筋ヶ岳（1,004m）、高岳（962m）、小峰山（930m）、石ヶ岳（924m）などがあり、代表的な河川は、一級河川の島地川、二級河川の錦川、島田川、渋川、金峰川、夜市川、富田川などがあります。

◆図5 主な山岳と河川



(3) 気候

本市の気候は、南部は温暖少雨の瀬戸内型、北部は寒暖の差が大きい内陸型となっています。

最寄りの気象観測所における過去5年間の平均気温は、北部（広瀬地域気象観測所）が14.3℃、南部（下松地域気象観測所）が15.8℃となっています。また、過去5年間の年間平均降水量は、北部が2,488mm、南部が1,957mmとなっています。

◆表6 気象概況

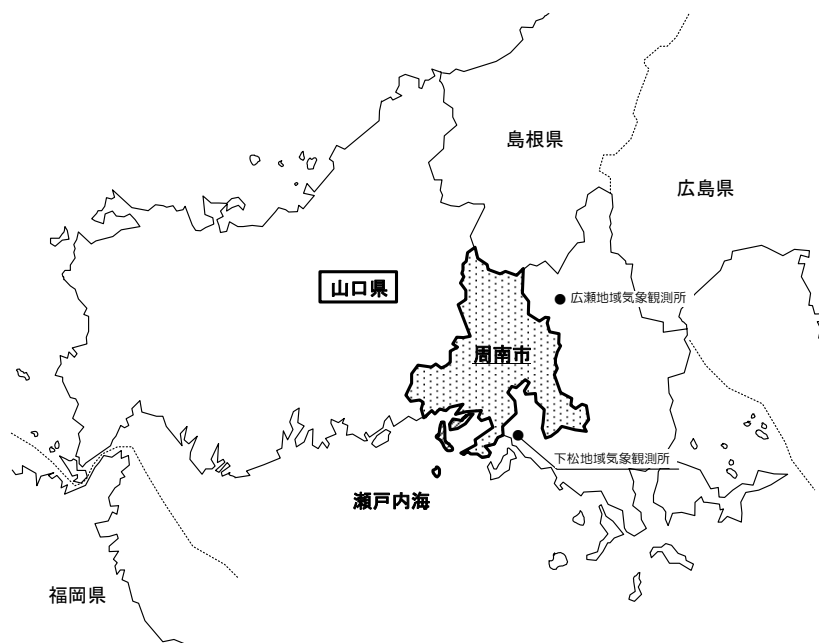
（北部：広瀬地域気象観測所）

（南部：下松地域気象観測所）

北部：広瀬地域 気象観測所	過去5年間（平成25～29年）		南部：下松地域 気象観測所	過去5年間（平成25～29年）	
	平均降水量	平均気温		平均降水量	平均気温
1月	112	2.9	1月	70	5.1
2月	126	3.9	2月	96	5.7
3月	136	7.9	3月	113	9.3
4月	261	13.1	4月	202	14.4
5月	206	18.0	5月	170	18.9
6月	371	21.3	6月	292	21.9
7月	281	25.6	7月	246	26.3
8月	272	26.1	8月	210	27.2
9月	237	21.6	9月	184	23.0
10月	243	16.5	10月	205	18.5
11月	116	10.4	11月	90	12.8
12月	127	4.5	12月	79	6.1
年間	2,488	14.3	年間	1,957	15.8

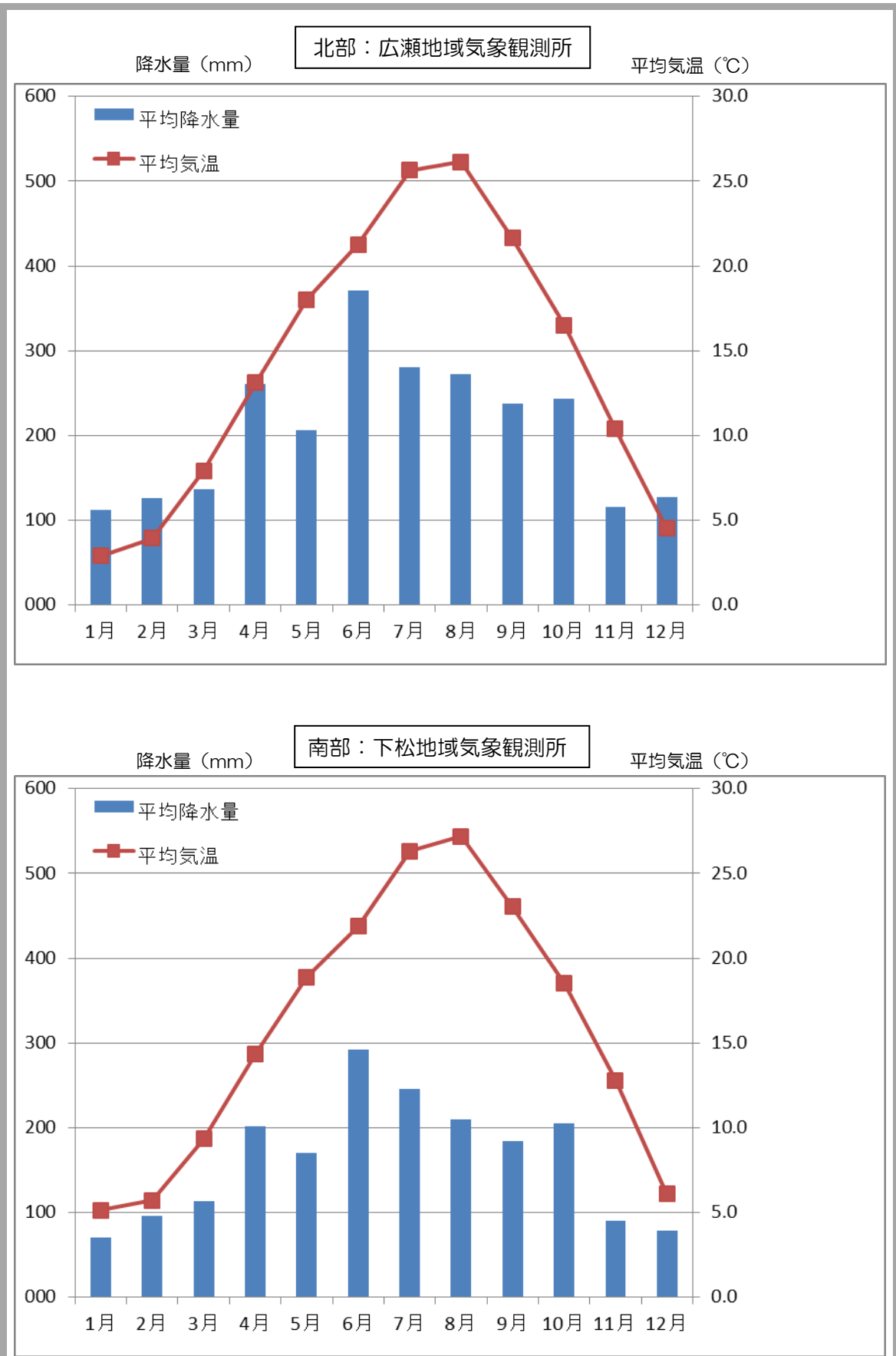
資料：気象庁ホームページより

注）北部と南部を代表する気象データとして、本市最寄りの地域気象観測所によるものを選定しました。地域気象観測所の場所は、下図のとおり。



※本計画の図表は、端数処理による割合欄の数値合計が100%とならない場合があります。

◆図7 月別平均降水量及び月平均気温（平成25年～平成29年）



2. 社会環境

(1) 人口・世帯数

①人口・世帯数

本市の人口は、平成 27 年国勢調査において約 1 4 万 5 千人で、減少傾向にあります。

一方、世帯数は増加傾向を示し、その結果一世帯当たり人口は減少しています。

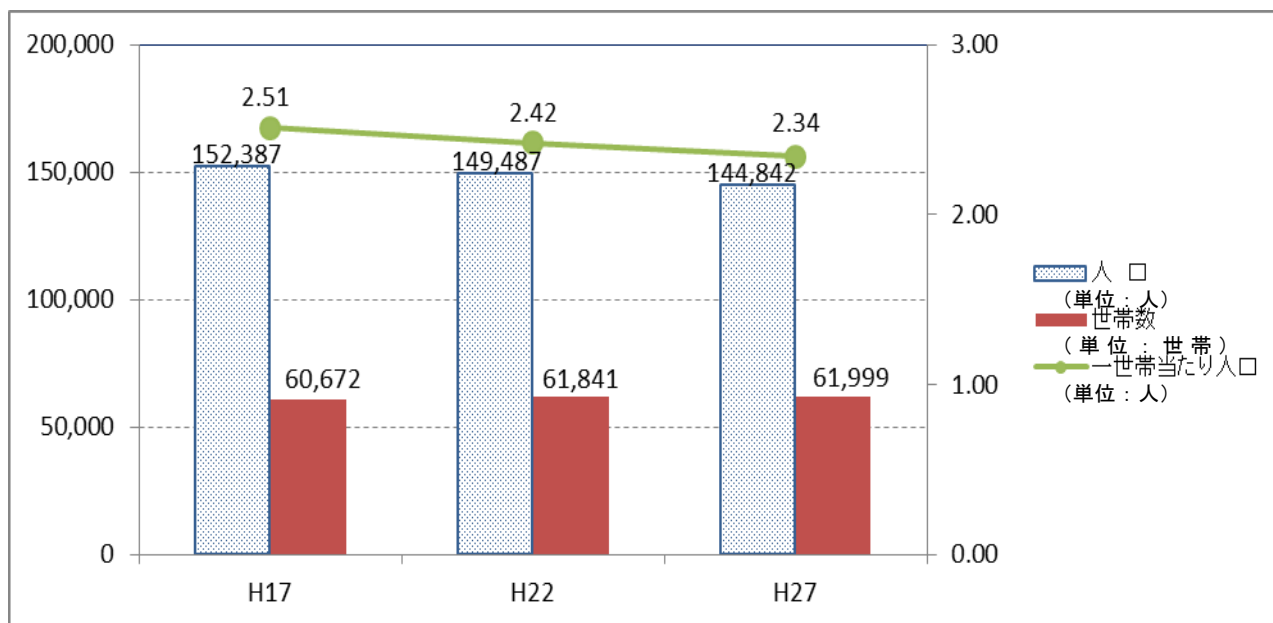
表8 人口及び世帯数の推移

項目		H17	H22	H27
本 市 全 体	人 口(人)	152,387	149,487	144,842
	世帯数(世帯)	60,672	61,841	61,999
	一世帯当たり人口(人/世帯)	2.51	2.42	2.34

注) 各年 10 月 1 日現在

資料：総務省統計局「国勢調査」

◆図9 人口、世帯数、一世帯当たり人口の推移



②年齢別人口

本市の年齢別人口割合は、0～14歳が12.3%、15～64歳が56.1%、65歳以上が31.6%となっており、山口県とほぼ同じ割合となっています。

◆表 10 地区別の年齢別人口

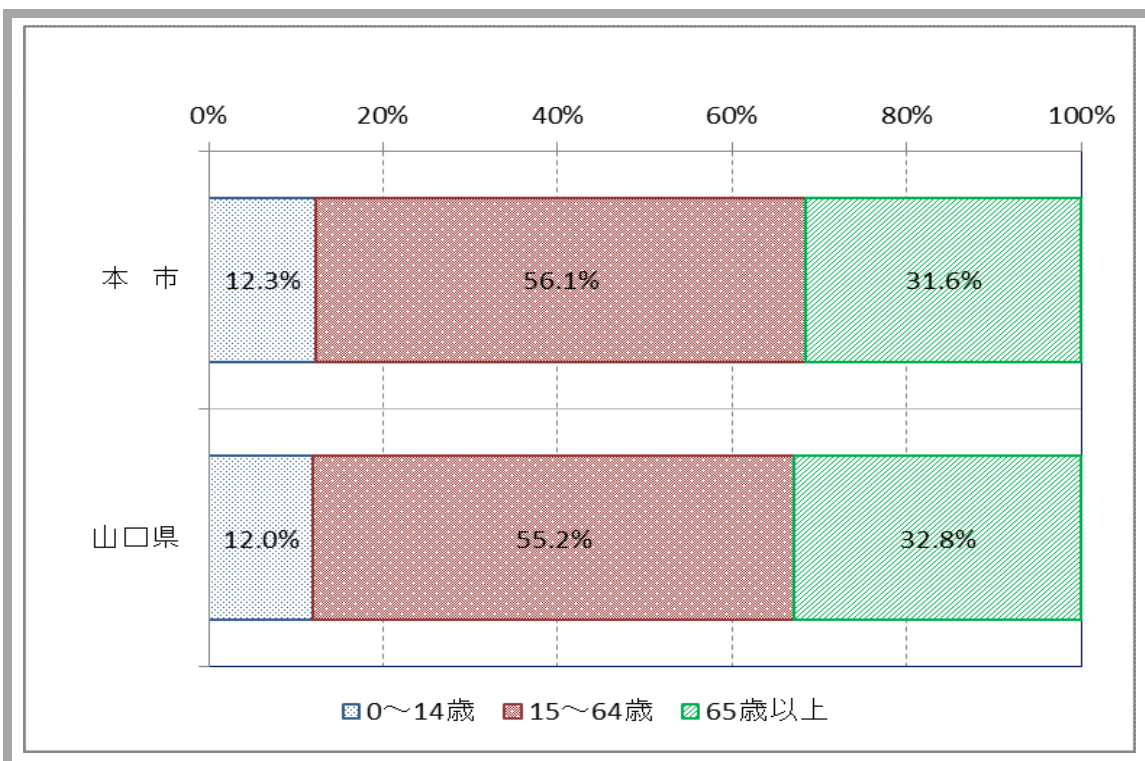
単位：人

		0～14歳	15～64歳	65歳以上
本 市		17,777	80,753	45,429
	(割合)	(12.3%)	(56.1%)	(31.6%)
山 口 県		167,352	768,951	457,601
	(割合)	(12.0%)	(55.2%)	(32.8%)

注) 平成 28 年 10 月 1 日現在
注) 年齢不詳の人口を除く

資料：山口県統計年鑑

◆図 11 年齢別人口割合



③人口動態

本市の人口動態は、年々減少傾向にあります。その要因として、死亡人口増加による自然減が多いことが挙げられます。

◆表 12 人口動態の推移

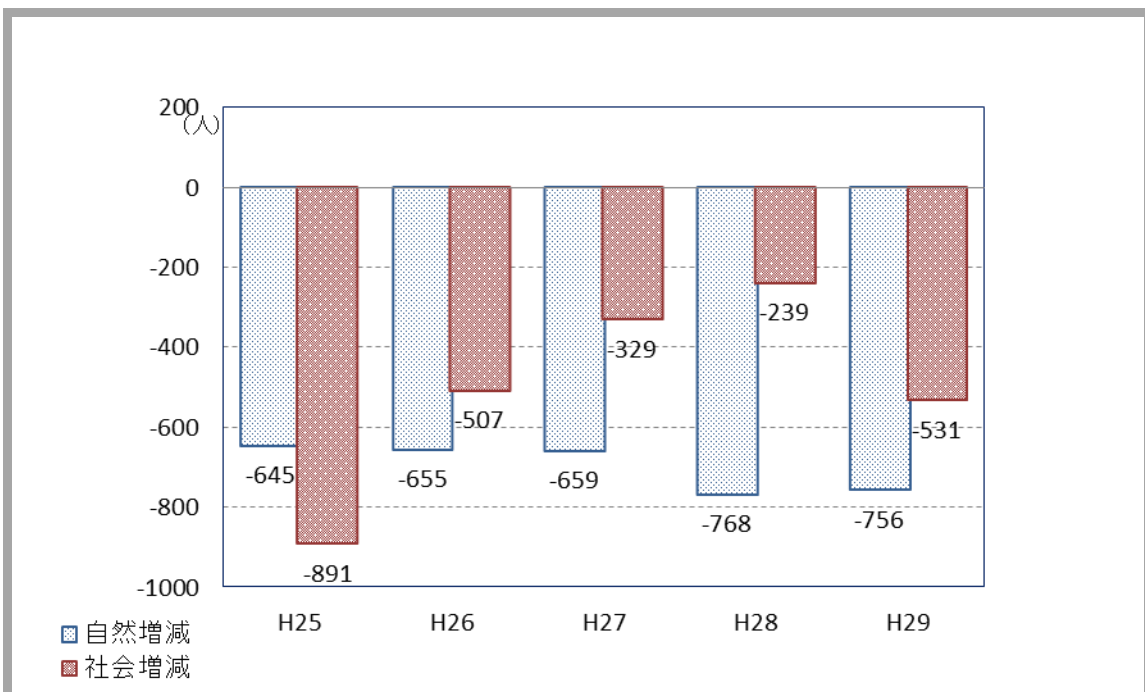
単位：人

	H25	H26	H27	H28	H29
自然増減	-645	-655	-659	-768	-756
社会増減	-891	-507	-329	-239	-531
人口増減	-1,536	-1,162	-988	-1,007	-1,287

注) 各年 10 月 1 日現在

資料：県統計課「山口県人口移動統計調査結果報告書」

◆図 13 人口動態の推移



(2) 産業

本市の産業別就業者数割合は、第1次産業が3.2%、第2次産業が31.1%、第3次産業が65.7%となっており、第2、3次産業がほとんどを占めています。

業種別では、第2次産業の製造業の割合が19.9%と最も高く、ついで第3次産業の卸売・小売業が15.4%、第3次産業の医療・福祉が13.3%と続いています。

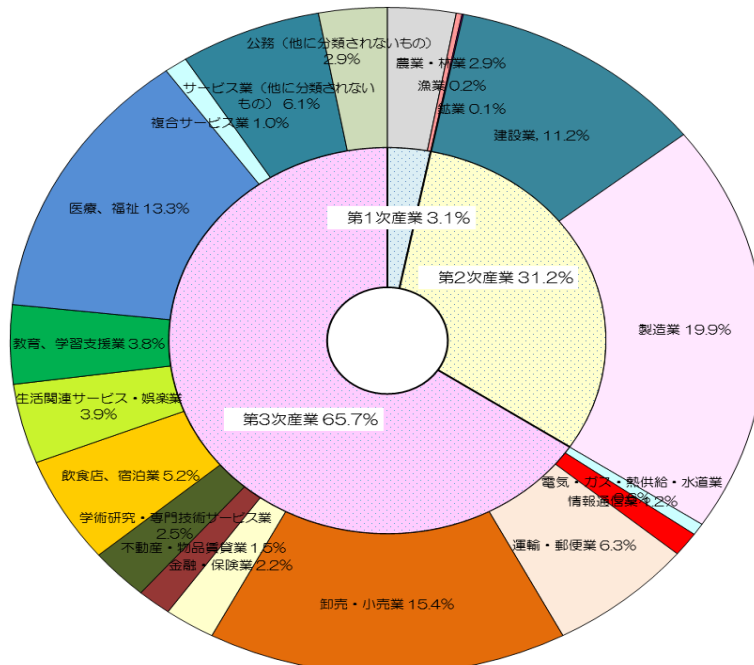
◆表 14 産業別業種別就業者数（平成 27 年 10 月 1 日）

項目		就業者数	(割合)	
第1次産業	農業・林業	1,883人	2.9%	3.1%
	漁業	160人	0.2%	
第2次産業	鉱業	36人	0.1%	31.2%
	建設業	7,172人	11.2%	
	製造業	12,794人	19.9%	
第3次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	373人	0.6%	65.7%
	情報通信業	754人	1.2%	
	運輸・郵便業	4,018人	6.3%	
	卸売・小売業	9,905人	15.4%	
	金融・保険業	1,399人	2.2%	
	不動産・物品賃貸業	940人	1.5%	
	学術研究・専門技術サービス業	1,630人	2.5%	
	飲食店・宿泊業	3,319人	5.2%	
	生活関連サービス・娯楽業	2,485人	3.9%	
	教育、学習支援業	2,460人	3.8%	
	医療、福祉	8,549人	13.3%	
	複合サービス業	636人	1.0%	
	サービス業（他に分類されないもの）	3,892人	6.1%	
	公務（他に分類されないもの）	1,883人	2.9%	
	合計		64,288人	

※分類不能の産業は除く。

資料：山口県統計年鑑

◆図 15 産業別業種別就業者割合（本市全体）



(3) 観光

本市には、動物園をはじめ、自然体験施設、温泉等多種多様な観光スポットがあります。平成28年の観光客数（実数）は約157万人です。（対前年比101.9%）

◆表16 観光地別・イベント別観光客数（延べ数）の推移（平成28年）

	観光客数（人）	前年比（%）
自然（山岳・自然公園）	56,580	100.1
歴史・文化施設	675,651	93.9
産業観光施設	313,154	94.1
レクリエーション施設	171,769	90.2
キャンプ場	11,158	86.6
ゴルフ場	230,360	96.5
温泉（宿泊・立ち寄り）	351,182	102.2
ホテル等（温泉宿泊施設以外）	404,250	106.9
地域のイベント	399,826	101.1
各種コンベンション	28,664	63.2
スポーツイベント	70,787	45.4

資料：山口県観光政策課「平成28年山口県の宿泊者及び観光客の動向について」

3. 都市環境

地域別に都市特性をみると、徳山地域及び新南陽地域は、中国地方でも数少ない国際拠点港湾を有し、周辺には石油化学コンビナートが形成され、石油や化学等の基礎素材産業をはじめとする多くの企業が立地した全国有数の工業集積地です。

また、平成 23 年に国際バルク戦略港湾に選定された徳山下松港は、平成 30 年 2 月に「特定貨物輸入拠点港湾（石炭）」に指定され、産業の競争力や国民生活の向上に不可欠な物資の安定かつ安価な供給を実現するため、国際バルク戦略港湾施策の最終目標である「大型船舶に対応した港湾機能の確立」に向け、官民一体となった取組みを進めています。

熊毛地域は、周南工業地域の背後に位置し、自然環境豊かな田園住宅都市として発展してきました。また、山陽自動車道熊毛 IC 等、交通の利便性もよく、都市基盤整備も進み、東の玄関口として一層、住宅都市機能が充実しています。

鹿野地域は、基幹産業であった農林業を取り巻く環境が大きく変化する中で、豊かな地域資源を活用し、新たな付加価値を生み出す 6 次産業化への取組みが進められています。

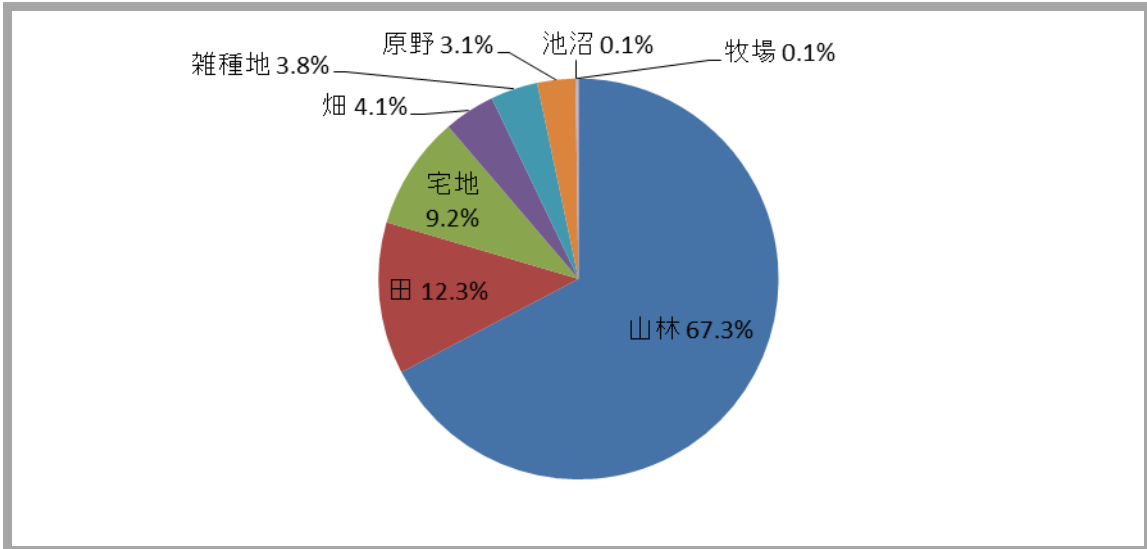
◆ 図 17 本市の市域



(1) 土地利用状況

本市の地目別面積の割合は、山林が67.3%と最も高く、続いて田が12.3%、宅地が9.2%となっています。

◆図18 地目別面積（平成28年度）

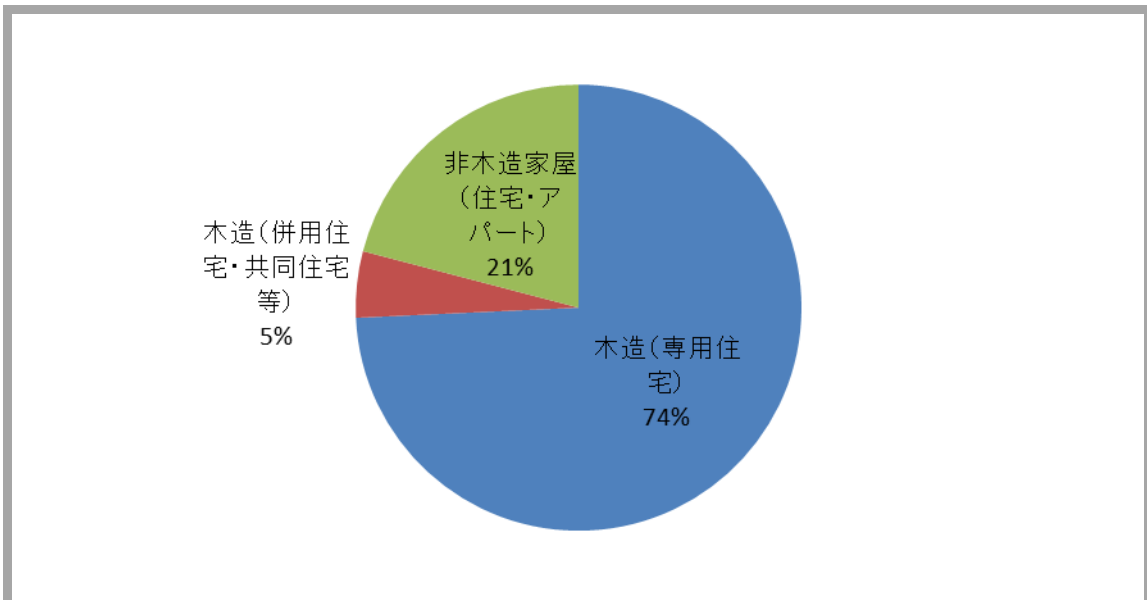


資料：平成28年刊 山口県統計年鑑

(2) 住宅状況

本市の住宅用家屋の割合は、木造家屋（専用住宅）が74%と最も高く、続いて非木造家屋（住宅・アパート）が21%、木造家屋（併用住宅・共同住宅等）が5%となっています。

◆図19 住宅用家屋の割合（平成28年1月1日現在）



(3) 道路整備状況

本市には、道路交通網として、国道2号、315号、376号、434号、489号があり、それぞれ市内を縦断、横断しています。高速道路は北に中国自動車道、南に山陽自動車道が走っています。これらは山口市内で中国自動車道として合流し、遠くは九州まで続いています。

鉄道は、山陽新幹線と山陽本線と岩徳線があり、瀬戸内海沿いを東西に走っています。

その他、徳山下松港が海上交通の拠点となっているほか、物流基地として大きな役割を担っています。

◆図 20 交通体系の整備状況

